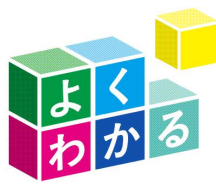


林修 × 朝日新聞

企画・制作 朝日新聞メディアビジネス局 広告特集 第3種郵便物認可 協力 株式会社ワタナエエンターテインメント



林修の特別授業

広告特集「おしえて 林先生!」でおなじみの林修先生が、いま気になるテーマをわかりやすく解説。第4回の今回は、各地で行われている農業の新規就農や担い手サポートの取り組みを説明します。

【今日のテーマ】
協同組合
第4回

農業の将来を担う

新規就農者の支援のために 総合事業の利点を生かしています。

林 これまでは、協同組合が「みんなの暮らしの向上のために」、「知恵と力を合わせて事業を行っている」ことを説明してきましたが、少し掘り下げて、どんな課題に向き合っているか、を見ていきましょう。

上川 日本では、農家の人が減っていて、農業を続けていくのが大変だ、という課題がありますよね。

林 日本の農村で起きている大きな問題の一つが、農業従事者の高齢化と「担い手不足」、それに伴う生産規模の縮小や耕作放棄地の増大です。農業で生計を立てていた人たちが農業を続けられなくなる、そして地域が崩壊していく、という危機を防ぐため、農業協同組合(JA)による新規就農の支援や、地域の担い手サポートの取り組みが各地で行われています。

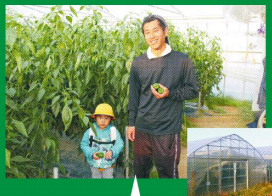
上川 でも新しく農業を始めするには、技術を覚えたり道具やお金を用意したり、やらなきゃいけないことが多そうですね。

林 その通り、新規就農者は農地や資金を確保しながら、地域に住居を見つけて自分の生活基盤を築かなければなりません。もちろん、農産物の栽培法や家畜の飼育技術も習得する必要があります。JAではそうした多くの課題を解決するため、栽培・経営管理の研修から、農地や農機などのあっせん・仲介、資金の貸し出し、決算・会計の支援など、総合事業の強みを生かして、就農前から就農後まで息の長いサポートをしています。

【就農時に苦労したこと】 (n=2,370)



JA岩手ふるさとの「農業マスター制度」



「JA岩手ふるさとの「農業マスター制度」は、1年目にJAの特別臨時職員として給与を受け取りながら、2年目にはJA指導員などのサポートの下、自分で栽培から出荷までを経験し知識と技術を身につけていきます。私もこの制度を利用して、新規就農を実現しました。(奥州市・齋藤博幸さん)

※全国新規就農相談センター「新規就農者の就業実態に関する調査結果」(2017年3月) ※複数回答可(上位三つを選択し順位を付けて回答)

新規就農者が「苦労したこと」の第3位までに選択した割合が最も高いのは、「農地の確保」。次いで「資金の確保」となっており、いずれも70%を超える。新規就農においては、この二つに「営農技術」を合わせた3点セットの確保が重要なことがわかる。

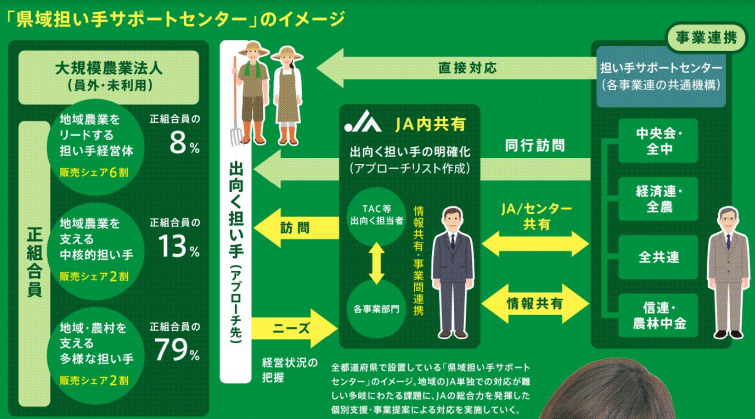


新規就農、地域の農業の中心となる担い手をサポート

地域の課題に、全国各地の知恵を集めて対応しています。

上川 一人では解決しにくい問題をパッケージで支援しているんですね。これから農業を始め人にはそれとして、大きな農家の課題や困りごとにはどう対応しているんですか。

林 JAでは、生産、販売、購買、資金対応、決算・会計、労務管理、リスク対策提案など、多岐にわたるサポートを実施し、経営発展の後押しをしています。地域のJAだけで対応が難しい大規模な農業法人や農家などに対しては、各県にある「担い手サポートセンター」が、JAと連携して、より専門的なサポートを行う。総合的な支援体制が構築できるのが強みなんです。



それぞれの農業の形にあわせ、多くのノウハウを提供して地域農業の発展維持に努めています。

農業を志す人の門戸を広げるために、様々なサポートを行っているんですね。

✓ 今日のとめ **地域を支える気持ち、農業を志す気持ちを、みんなの知恵と力で育てていく。それが協同組合。**

予告 次回、協同組合 第5回は12月上旬ごろ、「地域の暮らしを支える協同組合の総合事業」をテーマに掲載の予定です。

東進ハイスクール 講師 **林修**先生

はやし おさむ / 東京大学法学部卒業、東進のTVコマercialのセリフ「今でしょ!」が2013年話題・流行語大賞に、全学生から絶大な信頼を得る傍ら、多数のTVレギュラーを抱え多岐な日々を送る。

モデル **上川あいり**さん

かみかわ あいり / 1999年生まれ、中学3年生の時にスカウトされる。現在は現役高校生モデルとして活動し、朝日新聞大学入試キャンペーンイメージキャラクターを務める。